

マット・ベル

2014年5月11日

日本文学

おがき先生

代表、作家名、発行

一房の葡萄 A Bundle of Grapes, 有島武雄 Arishima Takeo, 1955 (昭和 30) 年 6 月 25 日
発

作家情報

有島 武郎 (ありしま たけお、1878 年 (明治 11 年) 3 月 4 日 - 1923 年 (大正 12 年) 6 月 9 日) は、日本の小説家。東京小石川 (現・文京区) に旧薩摩藩士で大蔵官僚の有島武の長男として生まれる。母は幸子。武郎 4 歳の時、父の横浜税関長就任を機に一家で横浜に移る。父の教育方針により米国人家庭で生活。その後、横浜英和学校 (現横浜英和学院) に通う。このころの体験が後に童話『一房の葡萄』を生むことになる。

学習院中等科卒業後、農学者を志して札幌農学校に進学、キリスト教の洗礼を受ける。1903 年渡米。ハバフォード大学院、その後、ハーバード大学で歴史・経済学を学ぶ。ハーバード大学は 1 年足らずで退学する。帰国後、志賀直哉や武者小路実篤らとともに同人「白樺」に参加。1923 年、軽井沢の別荘 (浄月荘) で波多野秋子と心中した。代表作に『カインの末裔』『或る女』や、評論『惜みなく愛は奪ふ』がある。



それに、その他の作品は下記に付けている。

小説[編集]	評論[編集]	童話[編集]
かんかん虫	惜みなく愛は奪ふ	一房の葡萄
或る女のグリンプス	宣言一つ	溺れかけた兄妹
カインの末裔	二つの道	
クララの出家		
或る女		
生れ出づる悩み		
凱旋		

あらすじ

主人公は男の子です。この人は名前をもらずに、この話に中心について子供です。この子は東京の山の手に通って、西洋人がたくさんいる町です。それに海の景色はすごくきれいで、刺激ぐらい絵を描くことします。知り合い人はジームで、絵の具を持ってる人です。男の子はジームの絵の具をつかいたいたいです、性格はとても恥ずかしいなら、何も言えない。借りたい気持ちは強くて、2つの色を盗んでも、後悔します。

東京のあたり、主人公の学校は山の手にあるから通っています。この町では西洋人いっぱいいるそうです。山の手での海岸は「眼がいたいようにきれい」と説明しました。すると話は学校で続きました。

主人公は学校のころについて話で、山の手海岸の魅力を持つことについて説明した。帰ると描いてる主人公は本当に絵を書くことすきだそうです。ジームという知り合いはもっと

背が高く人でも、描くことより上手です。それに絵の具を持ってる人で、これから主人公の欲張り出ます。ものすごく絵の具をほしくても、手に入れるできません。

すると学校では、他の生徒たちは外で遊びながら主人公は中でいた。これで主人公の欲張りがピークになって、ジームの机から2つの絵の具の色を主人公に盗まれ、ポケットの中に入りました。

学校が終わった時帰ろうとしてもジームと他の生徒たちが直面しました。やっぱり主人公は2つ絵の具を盗んで、先生に相談しました。主人公は先生を怖がりましたが、先生がやっぱりやさしかったでした。先生は主人公はの行動を恕してから一房の葡萄を上げました。主人公は深い赤恥を感じましたが先生のおかげでそんな思いを収まりました。次日に学校に戻ってから、主人公とジームは友達になりました。

印象

大丈夫でした。ダイレクションを見えなかったでしたが、面白いライフレッスンでした。葡萄の木は先生の窓の隣に芽生えてる事も面白いと思っています。学校では自分の経験にはそんな木が全然ないです。それに。。。この子は西洋人のところに育ったことは面白かったと思っています。よく日本人は学校の時期では外人がほとんどいないそうです。ユニークな経験をもたらした傾向があるかもしれません。ほとんど分かっていて、分からない点がありません。

ストーリーのテーマ

盗むことはだめです。するともものすごく悪くて、後悔のような気持ちを感じます。ものすごくほしくても欲張りを楯突いた方がいいです。それに、先生は新設です。困ってるところに先生

が心をいやせる。このような経験がありません。私にとって悪い事を行った時先生は全然
新設ではありませんでした。